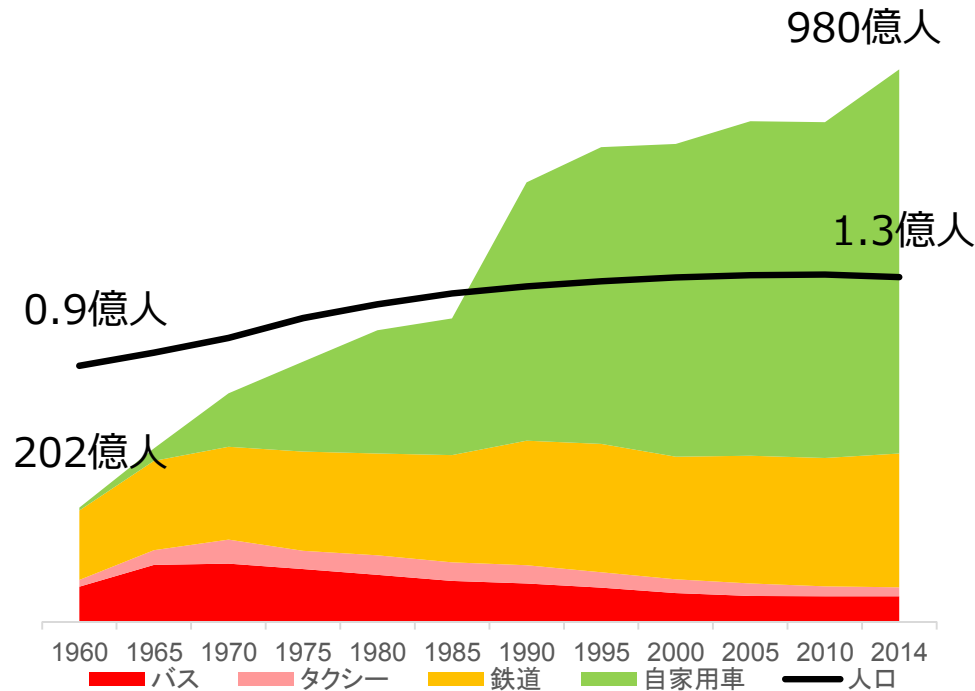


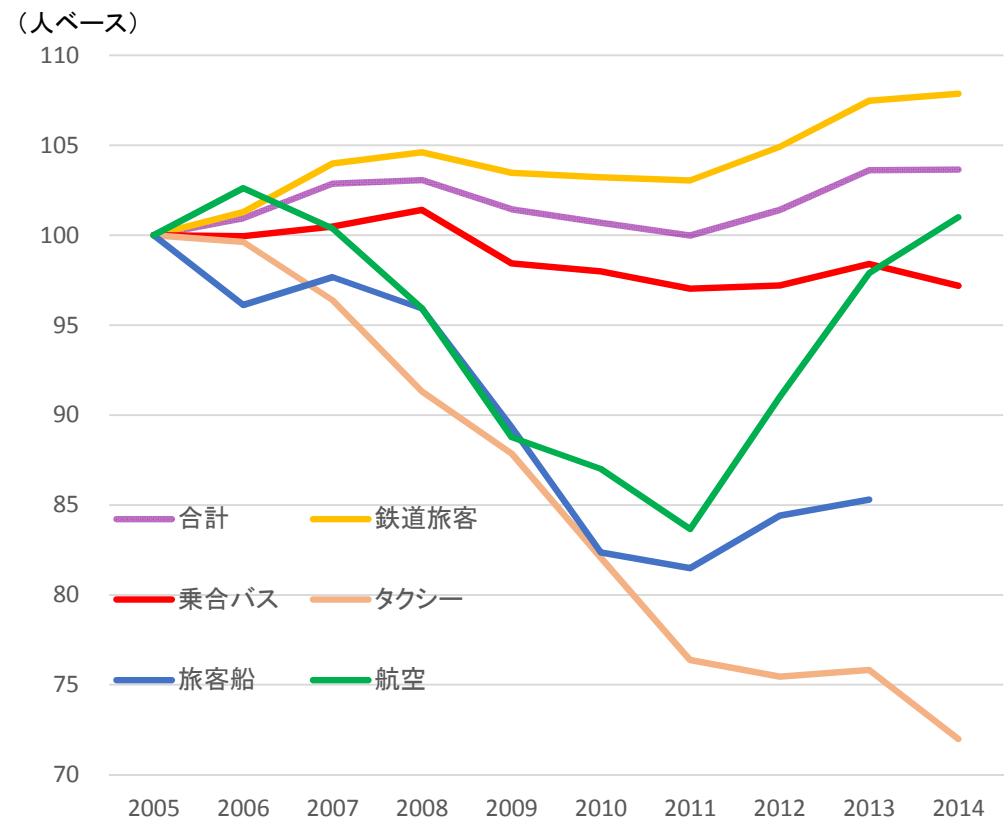
タクシー事業を巡る動き

- 様々な輸送モードの合計利用者数は、人口の伸びを上回るペースで増加。すなわち、国民1人当たりの移動回数が増加。
- 一方、バス・タクシーの利用は1970年代から減少。近年でも、特にタクシー利用者は減少傾向が継続。

輸送モード別の年間利用者数と人口の推移



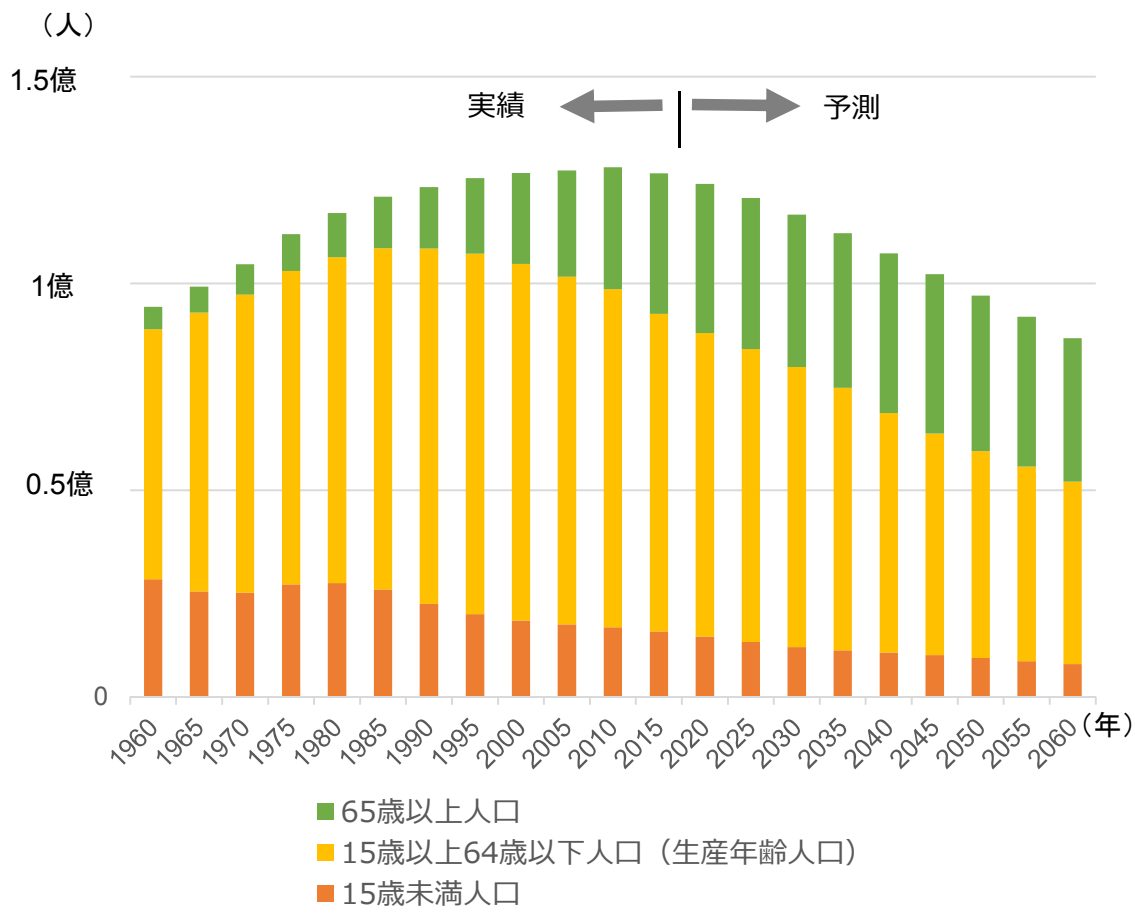
国内旅客輸送量の推移
(2005年度を100とした場合の動き)



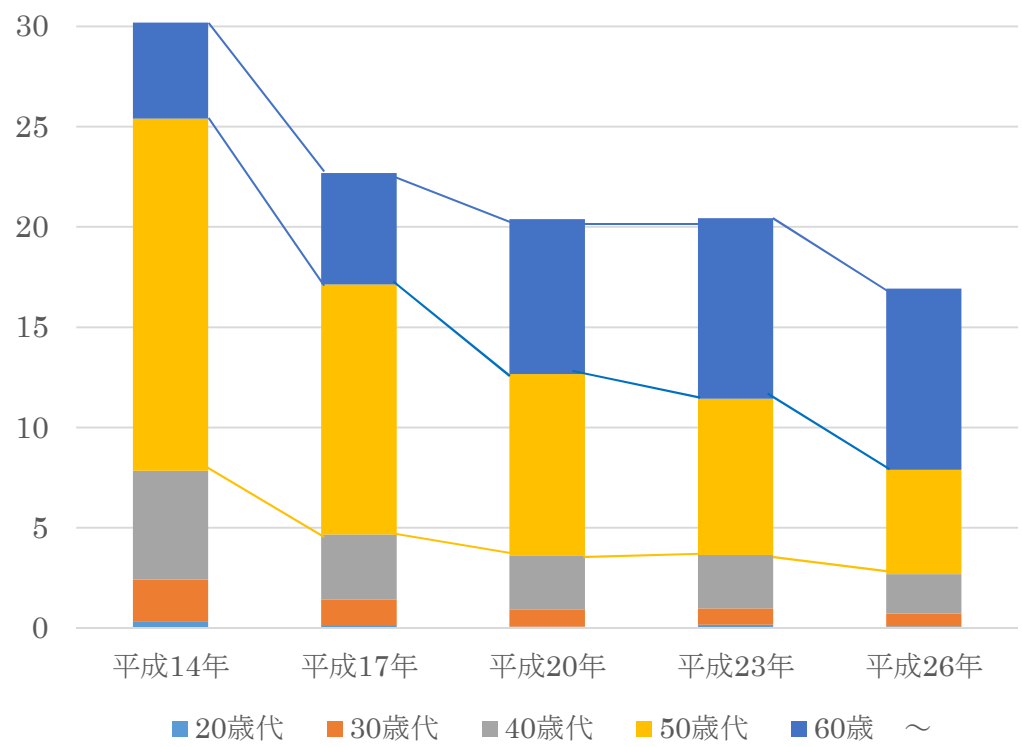
人口構造の変化①

- 我が国は人口減少・高齢化の局面。今後50年で、65歳以上の人口は3,400万人から400万人増加、生産年齢人口は7,100万人から2,300万人減少。
- ドライバー確保のためには、ドライバー 1 人当たりの輸送人数の増加、女性・若年ドライバーの増加が必要。

我が国における人口構造の推移



タクシー運転者数と年齢構成の推移 (法人・男性)



人口構造の変化②

- 訪日外国人の増加は、滞在人日ベース・交通消費額ベースで、人口増加と同等の効果。
- 若年層の外出率は減少しているが、いずれ人口の4割を占める高齢者の外出率は増加（非日常の長距離移動において特に顕著）。

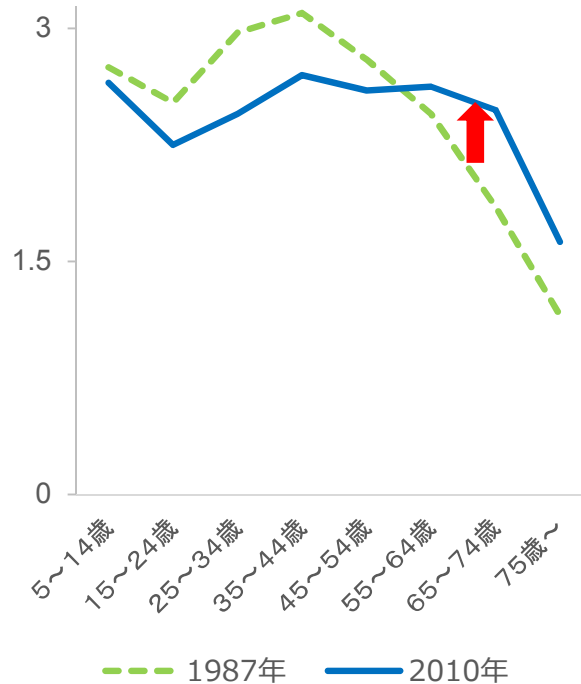
訪日外国人の人口効果（試算）

1,000万人 の訪日外国人
 = 35万人 の人口
 (滞在人日ベース)
 = 220万人 の人口
 (交通消費額ベース)

※2015年の訪日外国人は1,974万人

1人当たりトリップ数

(回/日)



1人当たり幹線旅客発生量

(回/年)

